

国内大学図書館が公開するデジタル情報資源

06L4402 葛谷 瞳

1. デジタルアーカイブとは

ここでは図書館が所蔵する貴重書や歴史資料等を電子化して公開するもの。

2. 先行研究

(1) 「国内大学図書館におけるデジタルアーカイブの動向調査」鈴木良徳. 愛知大学文学部卒業論文. 2009.

222 件の回答のうち 68 館がデジタルアーカイブを実施。

(2) 「地域図書館が発信する Web 上の電子化資料の主題とタイプの分析」(久保順子・杉本重雄. デジタル図書館. 2005, (27), 49-58.)、「公共図書館が Web で公開する情報資源とその特徴」(久保順子、杉本重雄. 情報メディア研究. 2008, 7(1), 15-31)

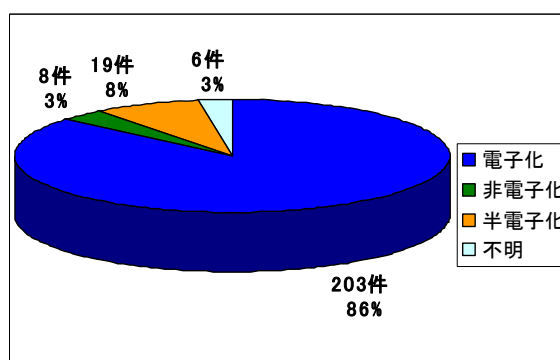
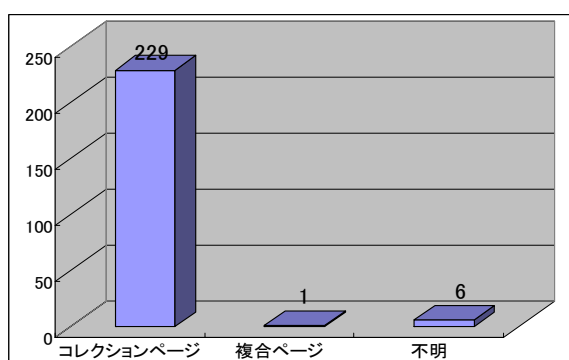
公共図書館における電子化資料のメタデータを作成し、分析をおこなった。

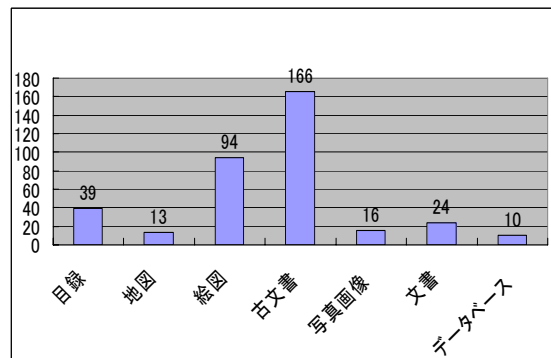
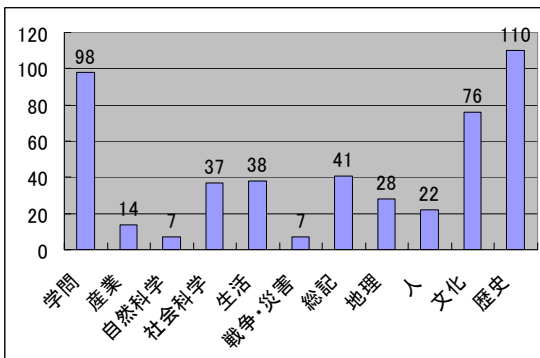
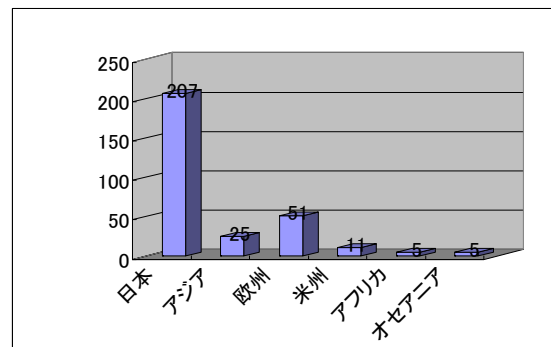
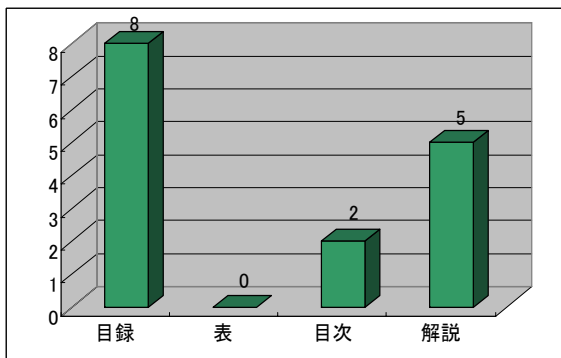
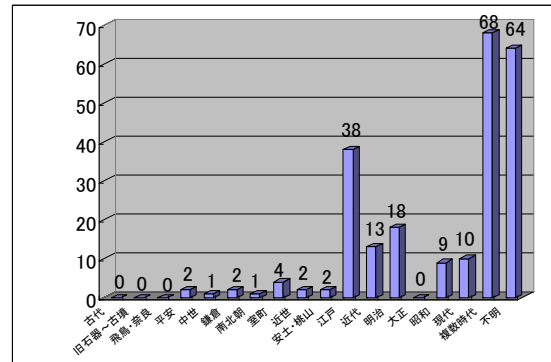
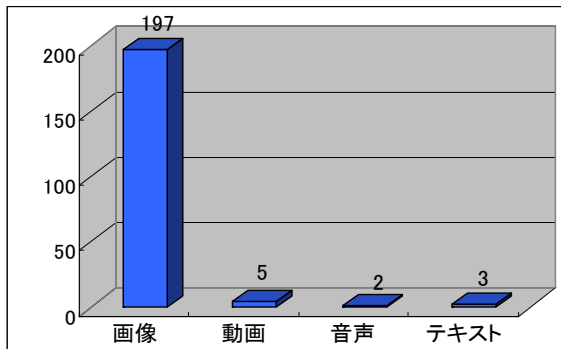
3. 大学図書館におけるデジタルアーカイブの調査

鈴木が収集した大学図書館デジタルアーカイブ一覧

(<http://ikamera.jp/tokizane/Shiryo/DigitalArchives.html>) に記載されている 236 件のデジタルアーカイブについて、久保・杉本の手法を用いて内容を調査・分析した。

4. 調査結果





5. まとめと考察

- (1) 階層を持つコレクション型がほとんどで、かつ電子化された画像がほとんど。
- (2) 情報資源の主題や提供方法も様々で、学術的専門資料、大学関係資料等がある。
- (3) 日本の資料が多く、また古文書が多い
- (4) 江戸時代、近代、明治の資料が多いのは、著作権処理が不要なことも理由であろう。
- (5) デジタルアーカイブの質の幅があり、総数も多く内容も充実し、体系化されている事業もあれば、とりあえず電子化し公開しているといった事業も見られる。
- (6) 海外の機関と協力することで、海外の資料についてもデジタル化し公開している例 (HUMI プロジェクトなど) もある。
- (7) 研究目的での利用のための情報資源の電子化もおこなわれている。
- (8) 今後技術・ノウハウの相互提供が望まれる